

父の日に考える

## 前立腺がん

企画制作 茨城新聞社営業局

がんは病気の広がりに対応

## 進行

泌尿器科では、PSA検査のほか、直腸診、超音波検査を行って診断をします。固いところがみつかった場合やPSAの値が高い場合には、がんの確定診断をするために針を数カ所に刺す生検を行います。見つからない場合には、MRI検査をすることもあります。

## 診断



じて3つに分けられます。初期は前立腺の中にある限局がん、次に前立腺の周囲に広がっている局所進行がん、骨などに転移している転移がんに進みます。

## 治療

初期の場合、治療法としては全摘出する手術のほか、放射線療法、ホルモン療法があります。がんがつかればすぐに治療を始めるのが普通ですが、前立腺がんでは、病巣が小さく悪性度が低ければ、治療せず

SA値の様子を見る経過観察という治療法を選ぶこともあります。手術をすると、尿もれやすくなります。放射線療法は入院せずに治療でき、尿もれの心配もありませんが、前立腺は直腸や膀胱と接しているため、便に血が混じったり、膀胱から出血したりすることもあります。合併症は減っていますが、ゼロではありません。前立腺だけを狙って放射線を当てることができ、技術が進歩し、治療率が高くなっています。再発して

## 生活スタイル考慮に治療選択

## 選択

治療法を選ぶ際には年齢も重要です。80歳の限局がんの場合、基本的に手術はしません。手術する年齢は

局所進行がんは手術ではなく、ホルモン療法や放射線照射が中心になります。転移がんの場合は、すぐにホルモン療法を行います。男性ホルモンを減らすために注射を打つか、精巣をとります。副作用はあまりありませんが、ほてりなどの更年期障害の症状が出ることもあります。ホルモン療法が効かなくなった場合は、抗がん剤などによる化学療法も行います。

しまった場合やがんが残っていた場合、放射線治療をしてから手術はできません。放射線療法で組織がダメージを受けるので、手術すると合併症を伴うためです。手術を受けても放射線療法やホルモン療法は追加できます。

70歳までを基準にしていますが、70歳前でも心臓が悪くても身体年齢が若いという人もいますので、その人に合った治療法を選ぶことになります。年齢、病気の悪化度や広がり、検査結果だけでなく、その人の生活スタイルや考え方も参考にしながら選択します。

## 普及

PSA検査が普及したことで、前立腺がんが多く発見されるようになりました。早期発見のため、50歳を過ぎたら一度PSA検査を受けてください。PSA検査は職場や地域の健康診断や人間ドック、泌尿器科などで受けることができます。がんという怖く感じる人もいられるかもしれませんが、前立腺がんは怖い病気ではありません。あなごうてはいけません。深刻に考えず、早めにがんを見つけて長生きしてください。

## お父さんの健康を守りたい

## 血液検査で早期発見

泌尿器科  
専門医

石川 悟

医師に聞く

いしかわ・さとる 1977年信州大学卒業、筑波大学附属病院外科系レジデント、81年筑波大学附属病院泌尿器科医長、82年筑波大学附属病院医員、84年筑波大学臨床医学系泌尿器科講師、87年米国テネシー大学留学、88年日立総合病院泌尿器科医長、2000年日立総合病院副院長、11年石川クリニック開業。日本泌尿器科学会認定専門医、日本泌尿器科学会認定指導医。

日本人をはじめ東洋人は非常に少なく、黒人や北ヨーロッパの白人に多いという人種的な差があります。日本でも最近前立腺がんが増え、原因として、高齢化や食生活の欧米化が言われています。PSA検査をはじめとする診断技術の進歩と普及により、発見しやすくなっている点も挙げられています。

何倍にも増えます。予防法は基本的に分かっています。がんが、和食がよいとする説が有力です。味噌汁や豆腐、納豆などの大豆食品の摂取や腸内細菌を良好に保つことが予防につながるといって研究もされています。

## 検査

前立腺がんは前立腺肥大症は別の病気です。肥大型になるのは前立腺の中心に近い所で、排尿障害が起きますが転移はしません。がんは約7割が外側の辺縁域で発生し尿が出てくると、出血などの症状が出てくるのはかなり進行してからです。

前立腺がんは、進行がゆっくりで、生存率の高いがんといえます。早期発見すれば、根治する可能性が高いがんなのです。早期発見のために、50歳になったら一度PSA(前立腺特異抗原)検査を

## 50歳過ぎたら「PSA検査」を

## 毎年

PSA値の正常値は4(ナノグラム)未満。検査は年に1回を目安に、数値が高めの人は半年に1回、1以下の低い人は2、3年に1回受けるとうよいと思います。PSA検査は感度が高く、がんを初期段階で発見できます。ただし、肥大型や前立腺炎(炎症)の人にも数値が高くなるので、すぐに「(PSA値が)高い」「がん」にはなりません。4以上の人は泌尿器科の専門医でより詳しい検査を受けてください。

受けましょう。血液検査で簡単にできます。この検査は前立腺だけで作られる前立腺特異抗原というたんぱく質ががんになると血液に出てくる性質を利用したものです。遺伝的リスクが高い人は40代から受けておくとうよいでしょう。